

果樹カイガラムシ類情報 第2号

平成 21 年 5 月 27 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

カキのフジコナカイガラムシのふ化時期は6月5日からです！

1 適期防除の重要性

フジコナカイガラムシの成虫や2齢,3齢幼虫の体表はロウ物質に覆われ薬剤をはじくため、薬剤効果はほとんど期待できません。そのため、薬剤防除適期は、ふ化幼虫時期に限られ、幼虫のふ化時期を把握し、適期に薬剤散布することが極めて重要です。

2 発生予測と現在の状況

JPP-NET を利用したフジコナカイガラムシの卵のう発生予測日は、豊橋市・岡崎市が5月24日、豊田市が5月25日、新城市が5月26日でした。そして、ふ化予測日は豊橋市・岡崎市が6月5日、豊田市が6月7日、新城市が6月9日です。

豊橋市のカキほ場では5月22日現在、すでに9割以上が卵のうの状態でした。卵のうの発生は予測よりもやや早く進んでいるため、ふ化日もやや早まる可能性があります。

3 発生の確認と防除

フジコナカイガラムシのふ化時期は地域やほ場によって異なりますので、自分でふ化を確認することが重要です。確認方法は、フジコナカイガラムシの卵のうを採集し、シャーレ(プラスチックカップでもよい)の中心に置き、周りにワセリン(軟膏やハンドクリームでもよい)を塗り(図1)、納屋など直射日光の当たらない涼しいところに置きます。卵のうからふ化した幼虫がワセリンにくっつき(図2)。

幼虫のふ化を確認したら速やかに本ほの防除をしましょう。しかし、ふ化幼虫時期は越冬成虫の産卵時期に幅があるため、約10日間隔で連続散布するとさらに効果的です。

本種が多発する最大の原因は「薬剤の散布むら」と言われています。「散布むら」の無いように十分な薬量(SSで200リットル/10a以上)を丁寧に散布することが重要です。そのため、SS走行スピードや走行路、整枝剪定にも配慮し、枝の重なりをなくすように工夫しましょう。

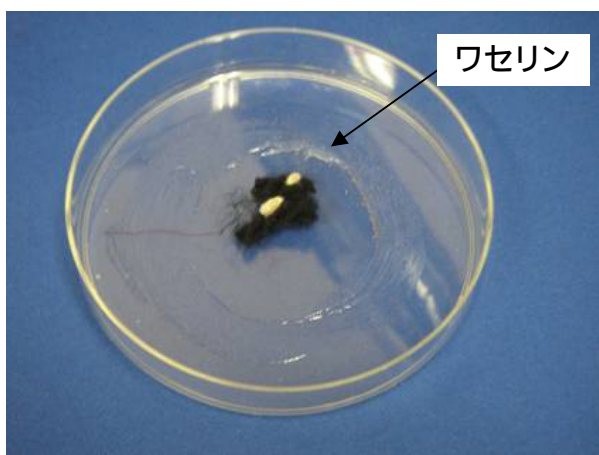


図1 シャーレ中央に卵のうを置きます



図2 ワセリンにくっついたふ化幼虫